

地域との対話の概要

平成 25 年 3 月 26 日
薩 摩 川 内 市

【ポイント】

1. ビジョンや行動計画の実効性を担保するため、市民に対する関連施策の普及と地域の具体的なニーズを吸い上げるべく、地区コミュニティ協議会との意見交換を行った。
2. 市民生活関連など身近な困り事やまちづくりの観点からの具体的な取り組みや事業を検討していく上で有益な意見等が出された。

1. 経緯

これまでのビジョン策定委員会及び地元作業部会での委員の意見を踏まえ、ビジョンや行動計画の実効性を担保するため、市民のニーズを吸い上げるべく、地区コミュニティ協議会(20カ所)と団体・機関等(9カ所)との意見交換を実施してきた。

これに引き続き、更に市民に対する関連施策の普及と地域の具体的なニーズを吸い上げるべく、地区コミュニティ協議会との意見交換を行った。

2. 意見交換日程

以下の4カ所で実施。いずれの会場も会長・役員等(十数名から数十名)が出席した。

- (1) 3月 5日(火): 烏丸地区(東郷)
- (2) 3月 6日(水): 野下地区(樋脇)
- (3) 3月18日(月): 可愛地区(川内)
- (4) 3月19日(火): 長浜地区(下甌)

3. 出席者から頂いた主なご意見

(1) 具体的な取り組みについて

- (ア) 市が個人住宅に太陽光パネルを設置し、余剰電力を売電して、事業費の回収や地域に還元する資金の調達を行うような仕組みはできないか。
- (イ) 廃校(野下小学校)の体育館の屋根に太陽光パネルを設置できないか。また、地区を流れる小川や水路でもらせん水車はできるのではないか。
- (ウ) 住宅の建築確認申請を行う際に、地元建築業界とも連携する形で太陽光パネルの設置を必須としてはどうか。

- (エ) 田舎ほど暗くて街灯は必要であると思うが、維持費がかかるのが問題であるので、太陽光パネルを備えたものがよいのではないか。
- (オ) 地区でエネルギーをつくるのが難しいのであれば節電やエコを進め、街灯はLEDにすればよいのではないか。
- (カ) 宇宙で発電して地上の基地に送電する方法もあるように聞くと、そういったことはできないのか。
- (キ) 子供みたいな話であるが、ナマズやウナギといった生物を大量生産して何とかして発電できないのか。
- (ク) 薩摩川内市において、九州で初めて実施するような日本のエネルギーに関する会議等を開催できないか。
- (ケ) 各学校に太陽光発電設備を設置して電気の見える化を行い、電気の作り方や使い方を小さい時から意識づけることもこの取り組みを進めていく上では大事ではないか。
- (コ) 温度差発電や波力発電、潮力発電など、甑島の特性を活かしたエネルギー開発ができないか。雇用にもつながるのではないか。

(2) その他

- (ア) 次世代エネルギーに取り組む理由の中で、持続的経済発展や財源縮小の部分の説明が足りないのではないか。
- (イ) 資料の説明では、ビジョン全体が本土向けのような印象を受ける。(長浜地区:下甑)
- (ウ) 甑島も屋久島のように「クリーンな島」というビジョンをもって取り組めば、観光にもつながるとともに、住みやすい島になるのではないか。
- (エ) 甑島のエコアイランド化について、再エネの導入以外に具体的には、CO₂をゼロにしたり、エコツアーを行ったりするという事か。
- (オ) 次世代エネルギーへの取り組みは、原発の廃炉に向けた取り組みということなのか。
- (カ) 次世代エネルギーの取り組みは理解できたが、この取り組みが何か地区のためになることが理想である。
- (キ) 福島原発事故もあったが、宇宙を含む広い環境の中で安全なものは何かということを考えていかなければならないのではないか。
- (ク) 甑島では家庭や地域でクリーンエネルギーをつくっても、電力会社とうまく調整しなければ使い道がないのではないか。
- (ケ) 甑島は電気代や燃料代が本土に比べて高いので、クリーンなエネルギーを使って何とかできないか。

以上

これまでの地域との対話の中で出された具体的な取組等について

- (1) 定住対策に関し、太陽光発電等を設置した賃貸住宅を設置してはどうか。
- (2) コミュニティセンターに太陽光発電設備や、電気自動車を導入してはどうか。
- (3) 地域のニーズに応じ、太陽光、風力、小水力、温泉熱、海洋エネルギー等を活用した地域振興を進め、これらの電気や熱を地域の観光資源と結び付けてはどうか。
- (4) 防犯対策も兼ねて、太陽光発電を活用した街灯を設置してはどうか。
- (5) 市役所の公用車に関し、防災対策を兼ねて電気自動車を積極導入してはどうか。
- (6) 農産物の生産プロセスに再生可能エネルギー由来の電気や熱を活用し、生産コストを削減することはできないか。
- (7) 公共施設の建設の際に、太陽光発電設備を備えた防災拠点の整備を進めてはどうか。
- (8) 遊休地や耕作放棄地等を活用して太陽光パネルの設置はできないか。
- (9) メガソーラーのパネルの下を活用して、水耕栽培施設のような工場を誘致するなど、有効的な活用はできないか。
- (10) クリーンセンターから出る排熱を利用して発電を行い、所内の電気を賄うことはできないのか。
- (11) 次世代エネルギーは、設置費用がネックになっているので、基金を設けて設置費用を無料にするくらいの思い切った施策が必要ではないか。
- (12) 市内には山林が多いので、木材からリグニンとセルロースを分離して、バイオプラスチックを作ってはどうか。
- (13) 個人の出費を抑えるために、太陽光パネルをリースにして、一般の住宅に取り付けてもらい、蓄電や売電する仕組みはつくれないか。
- (14) 発電等の施設を活用して、薩摩川内市の入口である川内駅を活性化させ、エネルギーのまちであることをPRし、より多くの人を呼び込めないか。
- (15) 海洋エネルギーについて研究し、メディアに発表していけば話題性を呼び、市のPRにもつながるのではないか。
- (16) 作り手のいない耕作地を使ってさつまいもを栽培し、これを使って「イモ発電」を行う。売電益をコミュニティに還元し、活動費に補てんするモデルを構築してはどうか。
- (17) 新田神社等、まちが誇れる設備を再生可能エネルギー由来の電気ですライトアップしてみてもどうか。
- (18) 限界集落対策として、デマンド交通の導入や、耕作放棄地への太陽光発電の導入等を考えてはどうか。
- (19) 「日本一休まない図書館」に、太陽光発電設備等の「勲章」を与えてはどうか。
- (20) お年寄りが元気を出してもらえるよう、お年寄りだけのコンサートを開催し、その電源を再生可能エネルギーで賄ってはどうか。
- (21) 太陽光パネルを自治会館等の屋根に設置し、売電益を自治会の費用に充てる仕組みを各地区で実施する考えはないか。

- (22) 市内には良い温泉が多いので、温泉を観光産業として発展させるため、温泉への交通アクセスの利便性を図ってはどうか。
- (23) 市外から人を呼び込めるような施設(遊園地等)を整備すれば、ホテル等も1年中賑わうのではないか。
- (24) 中郷の上池と下池の落差を利用し、らせん水車等を設置して、揚水発電を行うことはできないか。
- (25) 市庁舎の廊下に、床を踏む時に発電する設備を設置して、市民等に体験やPRを図ってはどうか。
- (26) 川内港に波を利用した実験的な設備を設置してはどうか。
- (27) 木質バイオマスで、間伐材の処理など山が循環していくシステムがつかれないか。
- (28) 自然エネルギーを活用して、電気代の高騰をカバーできないか。
- (29) 甌島には古い地層等があるので、「電気石」や「ヘリウム3」について大学等と調査をしてみてもどうか。
- (30) 蓄電会社をつくり、電気を使いたいときに使いたいだけ送電できないか。
- (31) 民間では20年の長期間の事業スキームをつくるのは困難な面もあるので、公共が積極的に民間の屋根を借りて、売電し収入を得る仕組みをつくるべきではないか。
- (32) エネルギーのまちとして、行政ばかりに負担させずに、各自が家からLEDランプを1個ずつ道路に向けて照らすなど、できることからやるべきではないか。
- (33) 産業廃棄物処分場もできるので、他所からゴミを集めてきて発電する方法もあるのではないか。
- (34) 市が個人住宅に太陽光パネルを設置し、余剰電力を売電して、事業費の回収や地域に還元する資金の調達を行うような仕組みはできないか。
- (35) 住宅の建築確認申請を行う際に、地元建築業界とも連携する形で太陽光パネルの設置を必須としてはどうか。
- (36) 地区でエネルギーをつくるのが難しいのであれば節電やエコを進め、街灯はLEDにすればよいのではないか。
- (37) 宇宙で発電して地上の基地に送電する方法もあるように聞くと、そういったことはできないのか。
- (38) ナマズやウナギといった生物を大量生産して何とかして発電できないのか。
- (39) 薩摩川内市において、九州で初めて実施するような日本のエネルギーに関する会議等を開催できないか。
- (40) 各学校に太陽光発電設備を設置して電気の見える化を行い、電気の作り方や使い方を小さい時から意識づけることはできないか。
- (41) 温度差発電や波力発電、潮力発電など、甌島の特性を活かしたエネルギー開発ができないか。雇用にもつながるのではないか。

以上